

奈良 作家・宗教者・ママの会・市民連合・新社会党

山下副委員長と懇談 熱い思い交流

「きょうは共産党に文句を言うために来ました」。1月28日、奈良県郡山市で開かれた日本共産党・山下芳生副委員長（参院議員）との懇談会。作家、宗教者、ママの会、市民連合、新社会党の人たちが参加し、改憲、野党共闘、総選挙結果などについて1時間半、率直に意見交換しました。

山下さんが「9条改憲ストップヘカを合わせたい」と述べて懇談。ママの会の女性は「共産党は安倍政権を倒す気があるのか」と切り出し、希望の党への党の対応について意見を述べました。そして改憲、来年の参院選で安倍暴走阻止への熱い思いを語りました。山下さんは「文句を言うためにわざわざここに来てくれたというのは、本当の友人だからだと思います。しっかり受け止めて私たちももっと変わります。私たちも共闘の中で気づくことがあれば率直に意見するようにします」とのべました。



懇談では総選挙について「選挙区に候補者を出さないと比例は伸びない。力をつけるまで共闘は先送り」と宗教者がのべると、作家の女性が「共産党が共闘へ本気を出した選挙だと身に染みて感じた。新しい人たちを引き入れるチャンス。まともなことを言っているのは共産党。躍進してほしい」と話しました。

9条改憲をめぐる「町内会も説得する必要がある」「支持者の外の人が大事。地域の著名人を巻き込む構えの運動を」とのべました。最後に発言した宗教者は「今日は励まされた。安倍にはやられると思っていた。寺の片隅に3000万署名を置く」と話しました。山下さんは「友人との絆をもっと深く広くするため近畿と全国をめくりたい」と話しています。



「民泊」と京のまち考える

穀田さん、住民、弁護士らが報告

「京都を住み続けられるまちに」と27日、「『民泊』と京のまちを考えるつどい」（党京都府委員会、京都府・市議団主催）が京都市内で開かれ、穀田恵二衆院議員、京都府・市議、学者らが報告しました。

穀田さんは観光の持続的発展方向は①観光を通じて平和な社会を構築し、文化や宗教の違いを超えた多様な交流を行うこと②「住んでよし、訪れてよし」の国づくり③宿泊事業は安心・安全が絶対条件とし、「インバウンドを吸収し、儲けさえすればよいというものではない」と述べました。「違法民泊」への対応は、行政が住民、業者の力に依拠すれば民泊新法は不要と強調しました。討論では日本ホテル中小旅館協同組合の理事長も発言。フロアから住民、弁護士、個人タクシー業者など14人が発言しました。倉林明子参院議員が開会あいさつしました。

安倍政権をひたすら追い詰める年に 大門さん縦横に語る

「大門さんに何でも聞いてみよう」と題した滋賀県大津市の日吉ブロック後援会の集い（28日）。大門さんは「今年は安倍政権をひたすら追い詰める年」と切り出し、参院選では「相互推薦・相互支援」の本物の共闘を追求することを強調。安倍改憲については「ケンカはしない、ケンカの道具も持たないが、日本刀は持つ、いざとなったら使う」というものであることをわかりやすく説明しました。アベノミクス、「自衛隊に感謝を」という宣伝をどう考えるか、中国問題など7つの質問に丁寧に答えました。

18年近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

No. 6(2018.1.30)